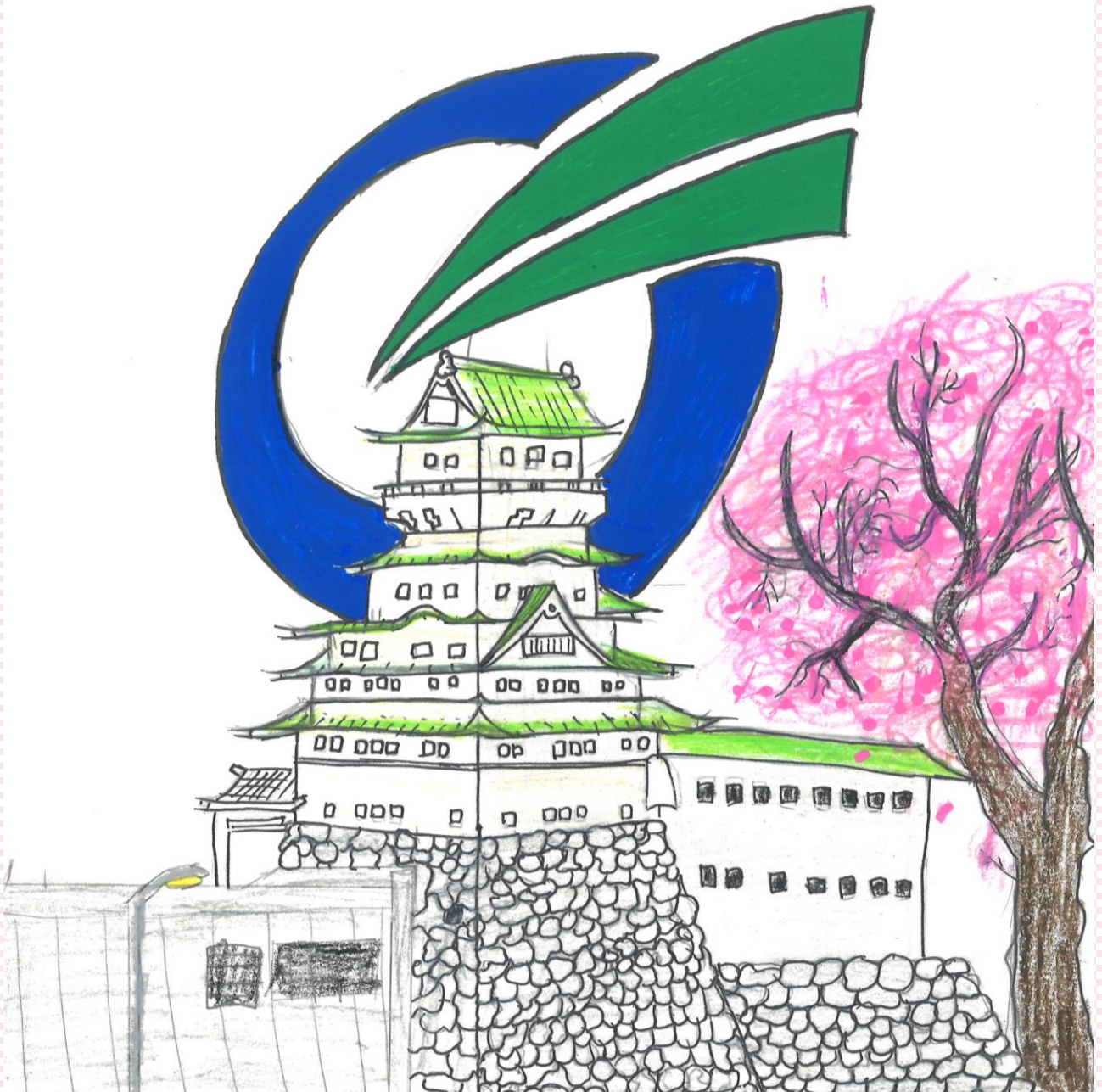


VII 行 財 政 運 営 の 効 率 化



『優秀賞』 石下紫峰高等学校 ティナガン ゼンリックさん

豊田城と満開の桜を描きました。常総市のシンボルである豊田城と、もう一つのシンボルである市章をお城に負けない迫力で大きく描きました。

【施策の目標】

1. 市民満足度の高い行財政運営を進める

【主要成果指標】

① 業務効率化・削減時間数				
現状値 (2021年度)	—	→	目標値 (2027年度)	10,000時間
行政事務の新陳代謝を図ることで新たな事業に取り組む余地を生み出すために、業務フローの改善やICTの活用などによって5年間で職員5人分の年間勤務時間数に相当する業務効率化を目指します。				
② 経常収支比率				
現状値 (2021年度)	83.0%	→	目標値 (2027年度)	90.0%
自由度の高い財政運営を実現するために、財政状況の弾力性を示す指標である経常収支比率を目標値以下に抑えることを目指します。 ※現状値には令和3年度の数値を掲載しておりますが、例外的に低い数値であったため、令和2年度以前が90%を超える水準で推移していたことを目標値設定の根拠としています。				
③ ふるさと納税寄附額				
現状値 (2021年度)	312,592千円	→	目標値 (2027年度)	1,000,000千円
市場規模が拡大しているふるさと納税について、プロモーションの強化や道の駅との連携を含めた新規返礼品の開発などにより、市独自の魅力ある事業を展開するための財源確保を目指します。				



Ⅶ-1-1

行政運営



基本方針

持続可能な自治体経営を実現するために、先進技術の活用などにより利便性の高い行政サービスの提供と業務の効率化を同時に進めます。

現状

課題

- 「常総市人材育成基本方針」に基づき、職員研修や庁内研修、人事評価を行い、人材育成や処遇への反映を行っています。
- 女性職員の管理職への登用、男性職員の育児休暇取得の推進に取り組んでいます。
- 市民サービスの向上と行政事務の効率化を図るため、市民窓口の集中化・行政手続きの簡素化を図るとともに、マイナンバーカードの普及に取り組んでいます。
- 指定管理者制度やPPP/PFIの活用に取り組んでいます。
- 「常総市地域情報化計画」に基づき、市民サービスの向上と行政事務の効率化に取り組んでいます。

- 自治体DXの推進に向け、職員の意識向上とともに、人材育成のあり方についても見直しが必要になっています。
- 仕事と子育ての両立やQOLの向上に向け、働き方改革への対応が求められています。
- 市民サービスの向上に向け、引き続きマイナンバーカードの普及に取り組むとともに、マイナンバーカードの活用に向けての検討が必要です。
- 引き続きPPP/PFIの活用を推進し、公共施設の効率的な管理や民間ノウハウの活用を進める必要があります。
- 地域情報化や自治体DXを推進するとともに、地域づくりへの効果的な活用に取り組む必要があります。

施策内容	主な取り組み
行政運営と人事管理の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ○仕事と子育ての両立の推進に対応するため、「常総市人材育成基本方針」の改訂を進めます。 ○男女共同参画や仕事と子育ての両立を推進するため、「常総市次世代育成支援特定事業主行動計画」に基づく取り組みを進めます。 ○職員一人ひとりのやる気と能力を引き出す組織体制を構築することで、活力ある行政運営の実現を目指します。
デジタル技術を活用した行政事務の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○行政サービスへのデジタル技術やデータの活用により、住民の利便性を向上させるとともに、業務効率化を図り、さらなる行政サービスの向上を目指します。 ○全市民へのマイナンバーカードの普及を目指し、引き続き効果的な交付に取り組み、市民サービスの向上や行政事務のデジタル化を推進します。 ○「オープンデータ基本指針」に基づき、行政情報のオープンデータ化の取り組みを進めます。
公共施設の適正化と活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「常総市公共施設等総合管理計画」に基づき、公共施設の量と維持コストの適正化に取り組みます。 ○市民サービスの向上と民間のノウハウを活用した魅力向上を図るため、指定管理者制度をはじめとする民間活力の導入を推進します。
情報公開の適正運用	<ul style="list-style-type: none"> ○行政文書の電子化を進めるため、文書管理システムを導入したことから、その適正な運用に取り組みます。 ○これまでの紙の行政文書だけではなく、電子化された行政文書についても「常総市情報公開条例」に基づく情報公開に取り組みます。



オンライン会議の様子



市民課に導入したキャッシュレス決済対応レジ



**基 本
方 針**

安定した財源を確保するため、課税の適正化と収納率の向上を図るほか、ふるさと納税の充実、公有財産の売却などの税外収入の確保に取り組みます。

現 状

- 地方公共団体情報システムの標準化に関する法律に基づき、令和7年度までに住民記録、地方税、社会保障、教育などの分野におけるシステムについて、標準化・共通化を図ることとなっています。
- 他自治体と比較すると、実質公債費比率が高く、積立金残高比率が低い状況となっています。

課 題

- システムの標準化に伴って、搭載できなくなる機能が生じることから、業務見直しの取り組みが必要です。
- 納税者の信頼を確保するため、適正な課税に努めるとともに、滞納の抑制を図ることが必要です。
- 税外収入確保のため、公有財産の売却やふるさと納税の取り組み強化が必要です。
- 将来世代の負担を軽減するため、実質公債費比率や積立金残高比率を改善する取り組みが必要です。

施策内容	主な取り組み
財政運営の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課税の適正化とともに、納税意識の啓発と的確な滞納整理に取り組みます。 ○ 財政運営の健全化を図るため、事務事業の見直しや公債費の繰上償還により財源の確保を図るとともに、基金への積み立てにより将来負担の軽減に努めていきます。
財源確保の取り組みの強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふるさと納税については、返礼品や参加事業者の拡大を図るとともに、企業版ふるさと納税の取り組みを強化します。

Ⅶ-1-3 連携事業



基本方針

市民ニーズに対応し、市民サービスの向上に寄与する大学や民間企業、他の自治体との連携を積極的に実施し、新たな施策や事業展開を目指します。

現状

- ゴミ処理、常備消防について、旧市町の体制で一部事務組合を構成していますが、それぞれ、設立後40年近くを経過しており、施設の老朽化が進んでいます。
- 自治体間連携については、千姫や防災といったテーマでの連携は進んでいますが、定住自立圏や交流についての連携は不十分となっています。
- 大学連携については、地方創生、学校適正配置、防災など、多くの行政分野での連携に取り組んでいます。
- アグリサイエンスバレーを起点として、6次産業化に向けた大学や民間企業との連携が進んでいます。
- 株式会社本田技術研究所と「A Iまちづくりへ向けた技術実証実験に関する協定」を締結し、智能化マイクロモビリティの実証実験が市内で始まりました。

課題

- 一部事務組合で実施しているゴミ処理、常備消防については、将来的な施設更新や運営体制のあり方を検討する必要があります。
- 教育分野との連携については、大学との連携に加え、地域資源の探求などを契機として、市内の高校との連携の充実を図る必要があります。
- 市民ニーズの多様化や行政課題の高度化に対応するため、教育機関や民間企業との連携を充実させる必要があります。
- 「A Iまちづくり」を推進するため、株式会社本田技術研究所のほか市民や市内企業を交えて、課題や解決方法を検討する必要があります。

施策内容	主な取り組み
広域連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○市民サービスをさらに向上させるため、他自治体とさまざまな分野での連携の可能性について研究を進めます。 ○一部事務組合については、持続可能なサービスを提供するため、将来のあり方について関係自治体と協議を進めます。
教育機関・民間企業との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○情報技術の活用や健康づくり、公共交通、防災、カーボンニュートラルなどの分野について、教育機関や民間企業の知見を積極的に活用するため、連携事業や人材交流に取り組みます。 ○市内の高校との間では、地域資源を学ぶ機会を創出し、郷土愛の醸成を促進します。
AIまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○市民の移動と暮らしの進化に向け、株式会社本田技術研究所の「知能化マイクロモビリティ」の技術実証実験を、市内各地において行っていきます。 ○株式会社本田技術研究所と市のほか、市民や市内企業を交えたコンソーシアムを設立し、まちづくりの課題分析や先端技術を用いたアイデアの創出などの協議を進めます。



大塚製薬株式会社との包括連携協定



東京農業大学との包括連携協定



大学との連携事業の一環でグループワークの様子



大学との連携事業の一環で市内フィールドワークの様子

